

4 死産と乳児死亡

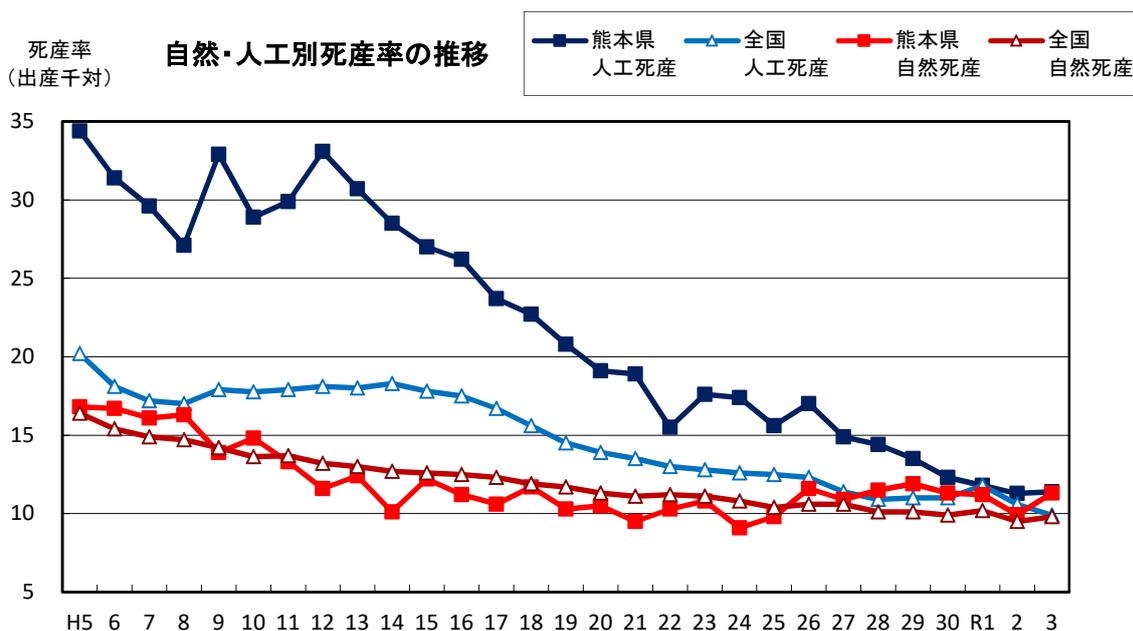
(1) 本県の死産率は、前年より1.5ポイント増加

令和3年の全国の死産率は19.7で、前年より0.4ポイント増加した。本県は22.7で、前年より1.5ポイント増加している。

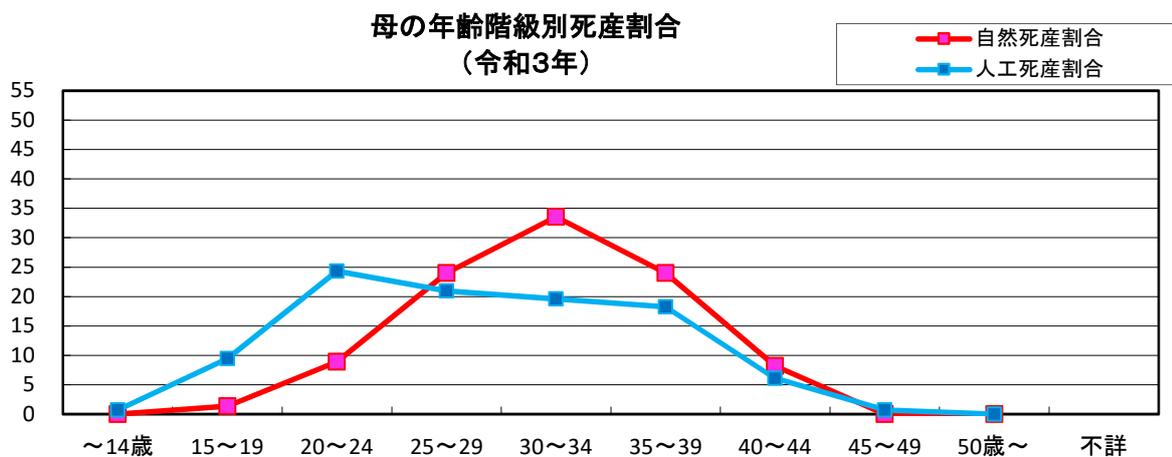
うち、自然死産率（出産千対）は、全国9.8で前年より0.3ポイント増。本県は11.3であり、前年より1.4ポイント増加した。

また、人工死産率（出産千対）は、全国9.9で前年より0.7ポイント減少。本県は11.4で、0.1ポイントの増加であった。

母の年齢階級別に死産割合をみると、自然死産では30歳～34歳及び35歳～39歳、人工死産では20歳～24歳が最多となっている。



資料) 厚生労働省「人口動態統計」

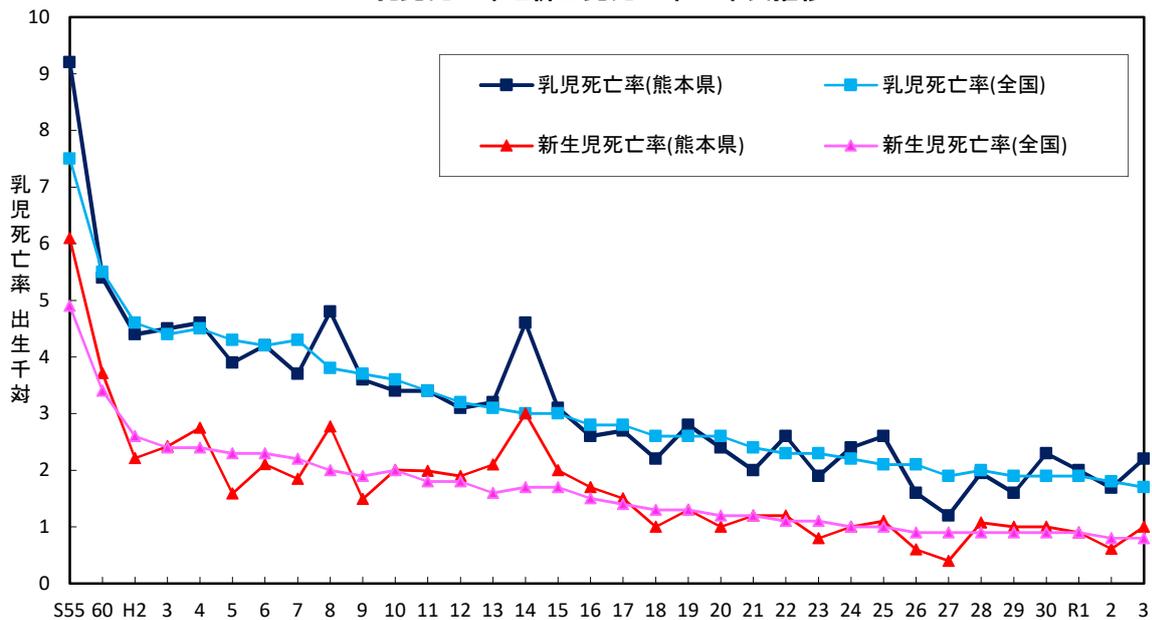


(2) 本県の乳児死亡率は前年より0.5ポイント増加、新生児死亡率も0.4ポイント増加

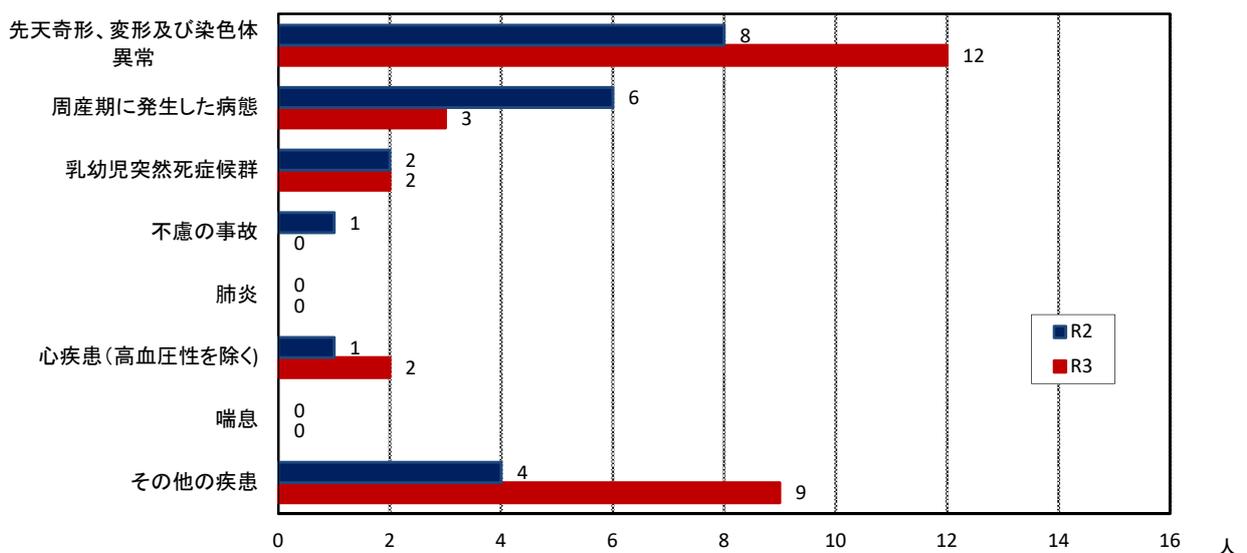
令和3年の本県の乳児死亡数は28人、また、新生児死亡数は13人で、乳児死亡数は6人増加し、新生児死亡数も5人増加した。乳児死亡率は、全国は1.7で前年より0.1ポイント減少し、本県は2.2で前年から0.5ポイント増加した。また、新生児死亡率は、全国は0.8で前年から横ばい、本県は1.0で前年から0.4ポイント増加した。

本県の乳児死亡数を死因別にみると、「先天奇形、変形及び染色体異常」が12人で最多であった。

乳児死亡率と新生児死亡率の年次推移



主な死因別乳児死亡数年次比較(R2-R3)

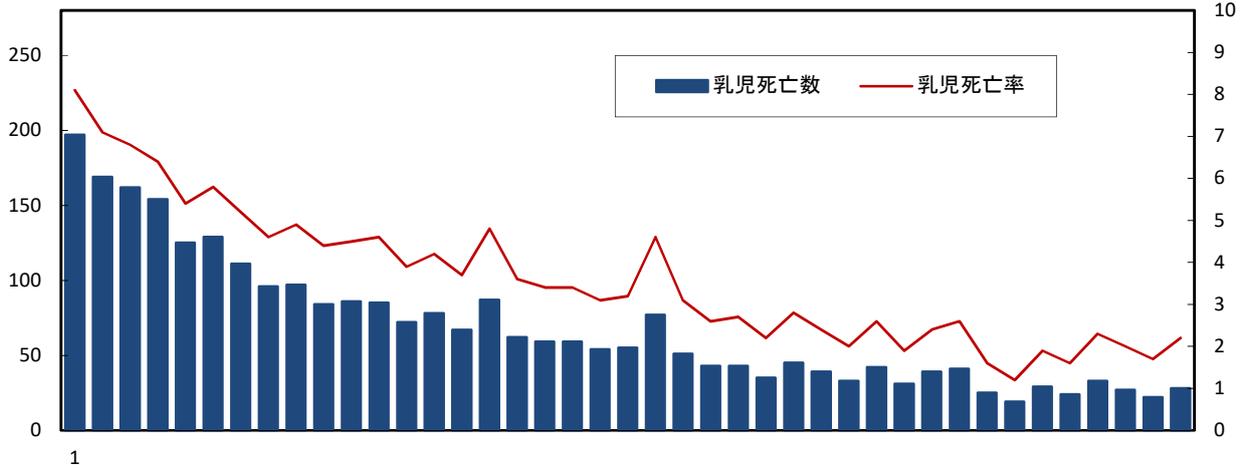


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

死亡数
(人)

乳児死亡の年次推移(熊本県)

死亡率
(出生千対)



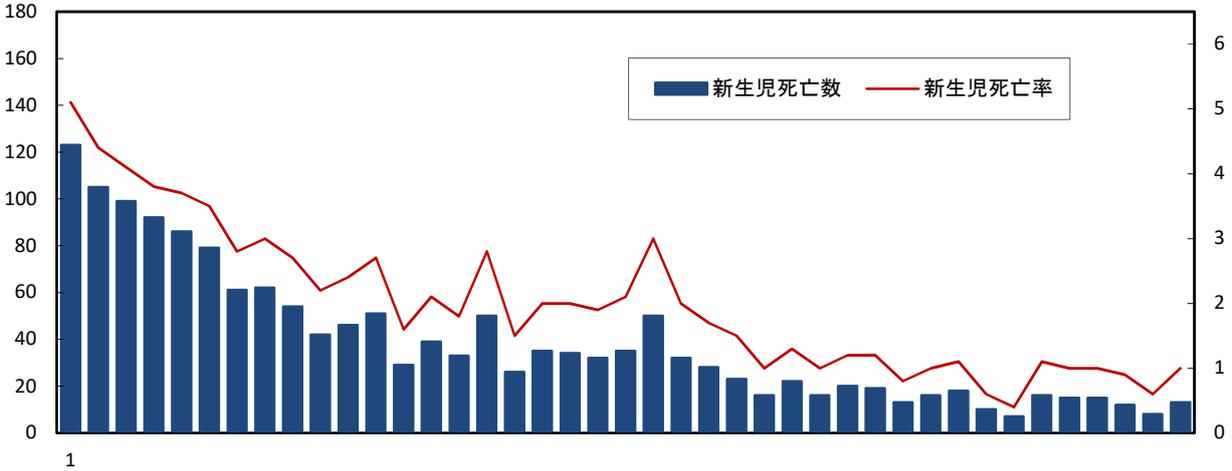
1

資料) 厚生労働省「人口動態統計」

死亡数
(人)

新生児死亡の年次推移(熊本県)

死亡率
(出生千対)



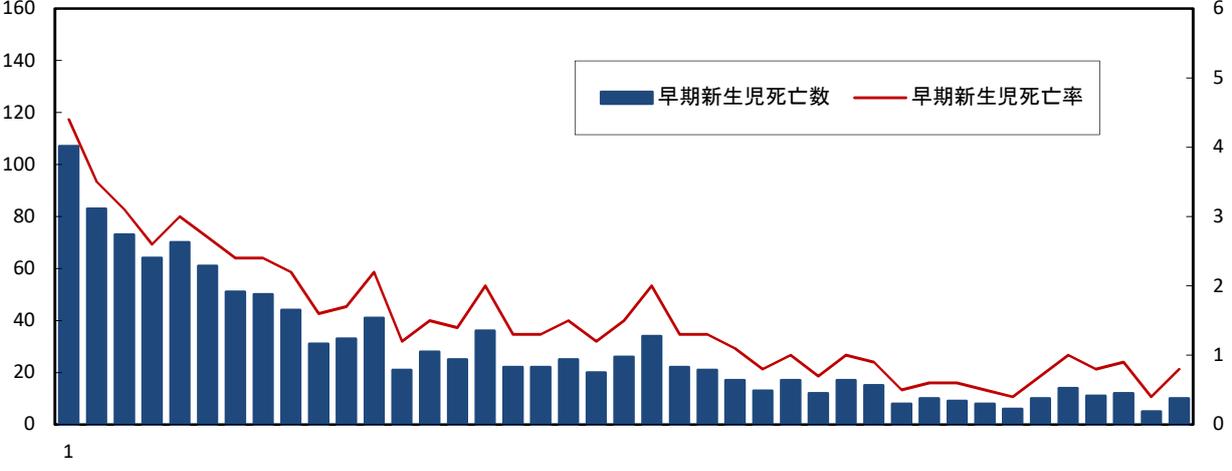
1

資料) 厚生労働省「人口動態統計」

死亡数
(人)

早期新生児死亡の年次推移(熊本県)

死亡率
(出生千対)



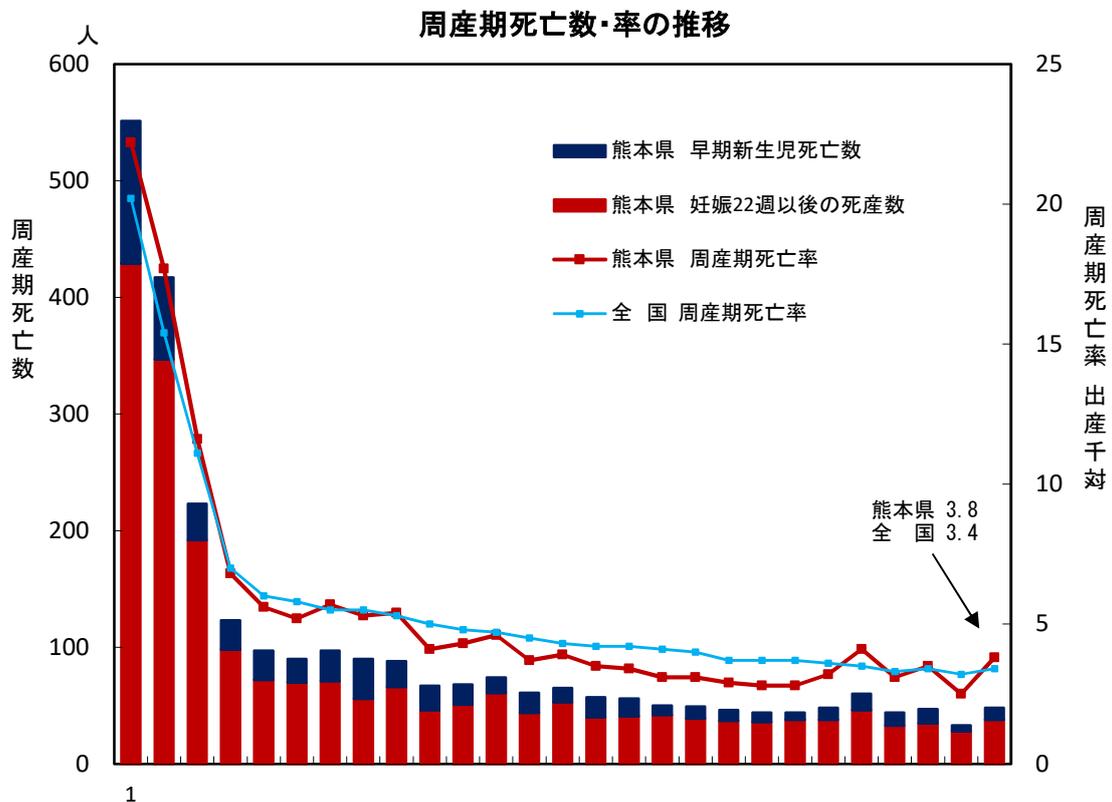
1

資料) 厚生労働省「人口動態統計」

(3) 周産期死亡率は、3.8で、前年より1.3ポイント増加

本県の令和3年の周産期死亡数は48人（妊娠満22週以後の死産数38、早期新生児死亡数10人）であり、周産期死亡率は3.8で前年より1.3ポイント増加し、全国より0.4ポイント高い値であった。

出産前後の死亡は、母体の健康状態に強く影響されやすいことから、出生をめぐる死亡として周産期死亡を観察している。平成6年までは、「妊娠第28週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの」を周産期死亡とし、通常出生千対の率で算出していたが、平成7年からICD-10を適用したことに伴い、周産期死亡を「妊娠満22週以後の死産数に早期新生児死亡数を加えたもの」とし、周産期死亡率の算出の分母を「出生数+妊娠満22週以後の死産数」にすることとなった。



資料) 厚生労働省「人口動態統計」